

町村名	浪江町
町村立学校名	浪江町立浪江にじいろこども園 浪江町立なみえ創成小学校、浪江町立なみえ創成中学校
就学園児・ 児童生徒数	こども園53名・小学校45名・中学校25名
現状と課題	
<p>1 ○新たなふるさと“なみえ”への思いの醸成（震災記憶の伝承）</p> <p>ふるさと創造学の学びの充実「“これまで”の理解」・「“今”の分析」・「“これから”への発信」を通して、将来の浪江町（福島）を支える有為な人材の育成に取り組んでいる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の人材や素材、環境を活用した教育の推進（企業・施設等訪問、郷土料理実習、職場体験学習、大堀相馬焼の実習）及びF-REIとの連携強化による教育活動の展開。 ・新しい価値観を踏まえた教育（ゼロカーボンシティ・水素タウン構想・スマートモビリティ等）を通じた学びにより、誰一人取り残さない多様性と包摂性のある持続可能な社会の実現を目指す教育(SDGs)の推進。 ・子ども議会（R5より再開）を通して、社会を生き抜く力や具体的な地域の課題解決に主体的に取り組もうとする力を身に付ける主権者教育の推進。 ・震災遺構浪江町立請戸小学校の整備と活用による防災教育の推進 <p>2 ○様々な配慮を要する児童生徒の転入への対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の組織的な資質向上による、少人数教育や特別支援教育の向上 ・一人一人の個性に対応した指導～主体的な学びへ ・1人1台タブレット端末の整備　・小学校・中学校間の相互指導 ・スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等の連携による対応 ・学習支援員（町採用）の配置 <p>3 ○極少数数の環境下での社会性・コミュニケーション力の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・複数学年・校種合同による教育活動の展開 ・哲学対話の実施。各教科の単元構想に位置づけ　・保幼小連携、小中連携による活動 <p>○様々な団体や学校等との多様な交流活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域ボランティア団体との連携（含・放課後児童クラブ） ・大学生とのコラボレーション　・テレビ会議システムの活用による複数校授業 ・他の学校への訪問交流、授業参加 <p>4 ○子育て家庭の不安感の解消、教育力向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こども園「子育てサロン」の定期的な開催 ・子育て相談　・保護者間の情報交換 <p>5 ○園児増加に伴う保育環境の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設の整備と職員配置（看護技師の配置） 	

第26回福島県双葉郡教育復興ビジョン推進協議会「各町村教育委員会の現状と課題」資料

町村名	葛尾村教育委員会
町村立学校名	葛尾幼稚園、葛尾小学校、葛尾中学校
就学園児・ 児童生徒数	幼稚園9名、小学校13名、中学校4名
現状と課題	
<ul style="list-style-type: none">葛尾村の現状について学校の状況についてふるさと創造学について	

第 26 回福島県双葉郡教育復興ビジョン推進協議会「各町村教育委員会の現状と課題」資料

町村名	双葉町
町村立学校名	双葉町立ふたば幼稚園、双葉南小学校、双葉北小学校、双葉中学校、
就学園児・ 児童生徒数	幼 4 名 南・北小 24 名 中 13 名 合計 41 名
現状と課題	
<ul style="list-style-type: none">• 双葉南、双葉北小学校が創立 150 周年 加えて仮設校舎 10 周年を祝う会の準備• 双葉町立学校生徒海外派遣事業英国訪問の準備 3 / 15 ~ 3 / 20 (ロンドン、ハル市、ビバリー町) ブルーバードアカデミー学校訪問• 学校設置検討委員会における基本構想の構築 第 4 回 1 / 30 第 5 回 3 / 1	

第26回福島県双葉郡教育復興ビジョン推進協議会「各町村教育委員会の現状と課題」資料

町村名	大熊町
町村立学校名	大熊町立 学び舎 ゆめの森
就学園児・ 児童生徒数	認定こども園 15名 義務教育学校 24名 合計 39名
現状と課題	
<ul style="list-style-type: none">• 帰還者・移住者の定住促進につなげるために、魅力的な教育活動の発信• 新たなコミュニティの創生と地域で学校を支える仕組み作りと社会教育事業の充実• F-REI やイノベ機構と連携し、地域の未来を担う人材を育成するための魅力的な教育活動の持続可能な展開	

第 26 回福島県双葉郡教育復興ビジョン推進協議会「各町村教育委員会の現状と課題」資料

町村名	富岡町
町村立学校名	富岡町立富岡小学校・富岡中学校
就学園児・ 児童生徒数	認定こども園 65 名、小学校 48 名、中学校 23 名
現状と課題	
<ul style="list-style-type: none"> • 園児・児童・生徒数の増加（町の移住・定住施策である教育費無償） • 特別支援学級増設による支援員の配置 • R6 年度 4 月から新施設で放課後児童クラブを運営（徒歩で移動可） • 特色ある教育活動として「PinS プロジェクト、EIP9 プロジェクト」を継続実施 • 地域学校協働事業の推進（統括コーディネーター、担当教職員、地域推進員） • ケース会議による連携・情報共有（学校、福祉課、健康づくり課、児童相談所） • 長崎大学、食品検査所、生活環境課と連携した「放射線・防災教育」 • 毎月 11 日を「防災・安全の日」に指定（警察署、消防署、防犯協会等と連携） • 教職員の人事異動・教職員の意識改革と教育活動の充実（課題） 	

第26回福島県双葉郡教育復興ビジョン推進協議会「各町村教育委員会の現状と課題」資料

町村名	川内村
町村立学校名	川内小中学園
就学園児・ 児童生徒数	かわうち保育園 園児 37名 川内小中学園 前期課程 42名 後期課程 22名 合計64名
現状と課題	
<p>現状</p> <ul style="list-style-type: none"> ・義務教育学校3年目 学校運営 修正・改善により進化中 ・2年間の県指定の人権教育推進校無事終了 ・地域文化伝承教室「コミュニティハウスにじいろ」利用者増加 (R3 1185人、R4 2143人 R5 12月末で1634人) ・川内村が各大学と包括連携協定を締結し村の復興、活性化、児童生徒の支援等で貢献 福島大学（平成24年1月17日） 長崎大学（平成25年4月20日） 玉川大学（令和5年11月6日） ・令和6年度中に教育委員会が旧川内中学校に引越（川内村役場庁舎建設のため） <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒数の減少→複式学級であるが加配教員により単式で (次年度予定) かわうち保育園 園児 26名 川内小中学園 前期課程 52名 後期課程 19名 合計71名 ・複雑な家庭環境や支援を要する児童生徒の増加→支援員，SC，SSW ・今後も継続的な教職員加配措置、SC，SSWの配置 	

第 26 回福島県双葉郡教育復興ビジョン推進協議会「各町村教育委員会の現状と課題」資料

町村名	檜葉町
町村立学校名	檜葉町立あおぞらこども園 檜葉町立檜葉小学校 檜葉町立檜葉中学校
就学園児・ 児童生徒数	園児数：135 名、児童数：134 名、生徒数 47 名
現状と課題	
<p>○町の現状</p> <p>住民基本台帳人口：6,680 人（令和 5 年 1 2 月末） 町内居住人口：4,461 人（≒ 67 %）</p> <p>○地域学校協働センターの活動状況</p> <p>主に小学校のアフタースクール活動として取り組んでいる 放課後 2 時 30 分～4 時 30 分まで 2 部制 登録率は約 80 % で毎日約 50 名が活動 土・日いずれかで毎月 1 回、学校外で体験活動 1 月 25 日に文科省・経産省が全国 3 団体のみ表彰する令和 5 年度の「キャリア教育連携表彰」を受賞</p> <p>○国際交流</p> <p>東京 2020 オリパラでのギリシャのホストタウンになったことから、オリンピック市と「産業・教育・文化」などの分野で幅広く交流するための覚書を締結して、グローバル人材を育成するため、交流を進める。</p> <p>○スポーツ振興</p> <p>来年度からサッカーインターハイが J ヴィレッジを主会場として、固定開催されるが、檜葉町も会場の一つとなるため、現在、人工芝ピッチを整備中</p> <p>○町の PR</p> <p>農業経営の効率化のため、サツマイモの産地化を進めていく中、檜葉のサツマイモを使い、高校生とマルトが連携して商品開発販売を行っている。</p>	

第26回福島県双葉郡教育復興ビジョン推進協議会「各町村教育委員会の現状と課題」資料

町村名	広野町
町村立学校名	広野こども園、広野小学校、広野中学校
就学園児・ 児童生徒数	357 広野こども園91、広野小学校147、広野中学校119
現状と課題	
<ul style="list-style-type: none">異校種間で連携し、指導の一貫性を保持した普通教育の推進学校図書館の充実と読書活動の推進グローバル人材育成の推進（広野中学校グローバルデイ、広野小中学校ブリティッシュヒルズ異文化交流体験活動）広野町教育環境の整備（広野町教育環境ランドデザイン）特別な支援を必要とする児童生徒数の増加傾向と指導教員の確保ふるさと創造学の充実広野町立学校運営協議会の活動の推進	